

事務事業及び予算の執行実績（令和6年度分）
「一部、令和7年度分を含む」

静岡県立静岡城北高等学校

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	23
学校施設の概要	24
在籍生徒調	26
入学志願者及び入学者数調	27
卒業生の動向調	28
生徒の状況	29
授業料収納状況調	30
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	32
預金調	33
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	34
委託料に関する調	36
負担金支出調	38
建築工事調	40
公有財産調	42
借地借家等調	43
行政財産貸付・使用許可調	44
主要備品調	46
職 員 調	47
職員の年齢調	50
健康管理	51

事務事業の概要

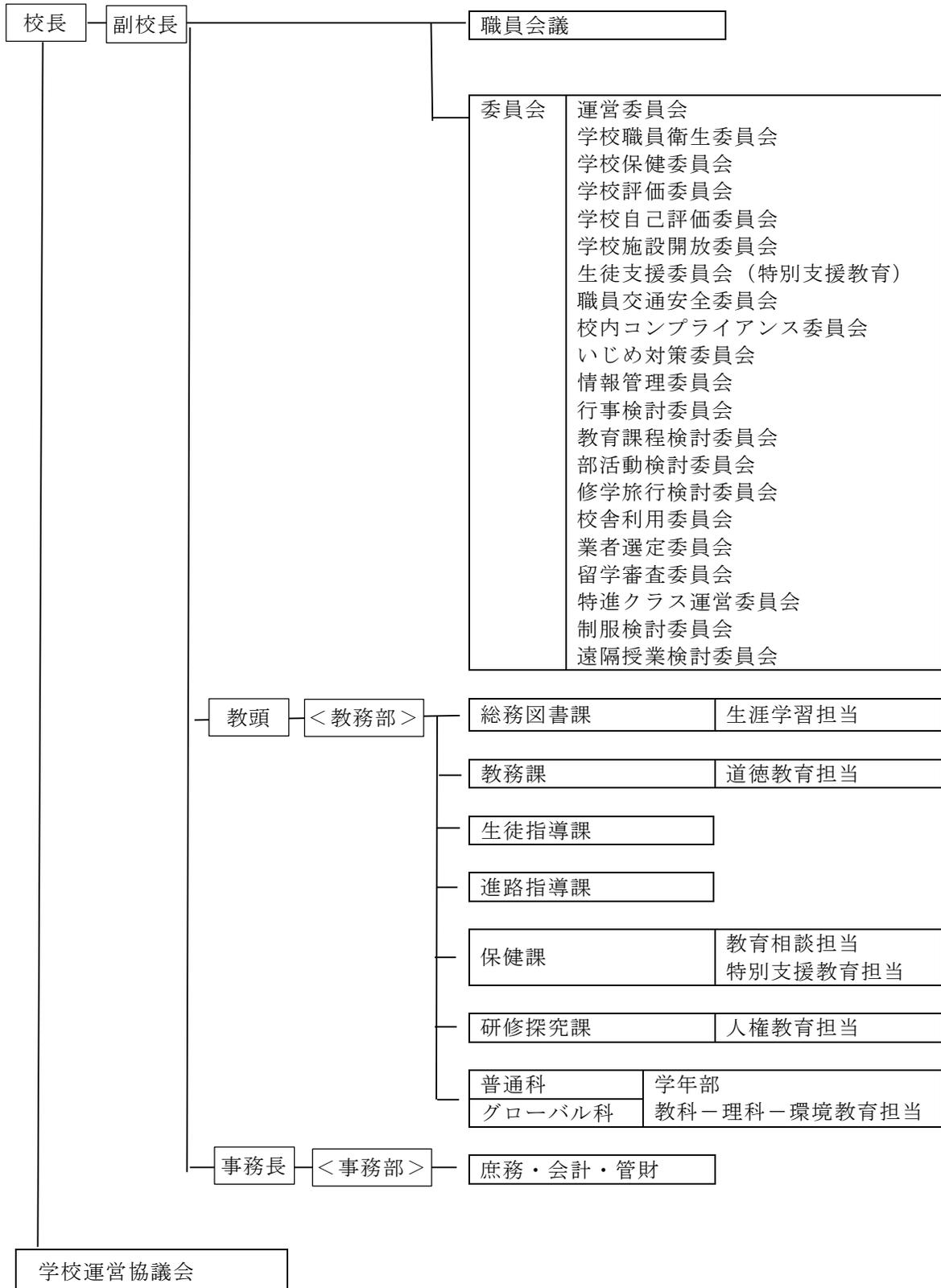
1 概況

(1) 学校の沿革

- 明治 36. 2. 4 設立認可、静岡県立高等女学校と称す。
36. 4. 16 開校、追手町仮校舎にて授業開始
37. 4. 1 市内末広町に新校舎移転
- 大正 11. 4. 1 静岡県立静岡高等女学校と改称
- 昭和 12. 3. 30 現在地の北安東に新校舎移転
23. 4. 1 学制改革により静岡県立静岡第二高等学校及び併設中学校と改称
24. 4. 1 男女共学となる。静岡県立静岡城北高等学校と改称
25. 4. 1 女子のみに戻る。
27. 3. 31 本館落成式挙行
27. 10. 30 創立 50 周年記念式典挙行
36. 4. 1 通信制課程設置
58. 9. 7 創立 80 周年記念式典挙行
59. 9. 30 校舎改築第 3 期工事竣工
61. 4. 1 国際教養コース設置
- 平成 2. 12. 15 校舎改築工事竣工
3. 3. 31 生活館兼同窓会館（撫子館）竣工
5. 3. 31 通信制課程廃止、静岡県立静岡中央高等学校に移管
5. 6. 24 創立 90 周年記念式典挙行
6. 4. 1 国際科設置（国際教養コースが昇格）
6. 8. 31 第 2 体育館改築工事竣工
7. 10. 30 グラウンド全面改修
12. 3. 27 コンピューター室設置
13. 2. 14 体育館兼講堂改修工事竣工
15. 11. 19 創立 100 周年記念式典挙行
17. 2. 25 男女共学化準備工事竣工（防球ネット設置・第 1 校舎 5 階東側男子トイレに改修）
17. 2. 25 グラウンド屋外照明設置工事竣工
17. 3. 31 普通教室等空調設備設置工事竣工
17. 4. 1 男女共学となる。
17. 12. 28 巴川流域貯留浸透施設整備事業完成
18. 1. 18 第 1 体育館耐震補強工事完成
19. 4. 1 男女共学完成、第 1 学年 1 学級増で定員 240 人となる。
22. 4. 1 第 1 学年 1 学級増で定員 280 人となる。
25. 4. 1 第 1 学年 1 学級増で定員 320 人となる。
25. 11. 13 創立 110 周年記念式典挙行
27. 4. 1 第 1 学年 1 学級減で定員 280 人となる。

- 令和 3. 4. 1 グローバル科設置（国際科が学科改善）
- 3. 4. 1 第1学年1学級減で定員240人となる。
- 5.11. 7 創立120周年記念式典挙行

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

グローバル教育を推進する普通科・グローバル科併置の伝統校として、
広い視野で地域の課題を発見し解決する探究活動を通して、
将来の Shizuoka を支え、行動する人材の育成を目指す。

(2) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
1 思いやりがあり、社会を支える一員として自律した行動が取れる人	1 探究的な問いを充実し、多様な人々と協働して問題解決に向かう「授業」	1 主体的・協働的に学ぼうとする意欲のある者
2 自分の目標や課題を見いだし、失敗をおそれずに取り組む人	2 「地域の人々に笑顔を届けよう」をテーマに地域の課題を理解し、解決方法を探る「城北スマイルプロジェクト」	2 「高き希望 (のぞみ)」を持ち、自己実現を目指す者
3 課題の解決に向け、自他の考えを吟味して、解決策を提示できる人	3 生徒の自律的な態度を育て、自己肯定感を高める「学校行事・生徒会活動・部活動」	3 グローバルな舞台で多様な人々と関わるための英語力を身に付けたい者

(3) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 生徒が主体的に自律した行動が取れるよう、生徒の行動をポジティブ・フォーカスで捉え、勇気づけのボイス・シャワーにより、自己有用感を感じ、自己肯定感を高められる教育活動を推進します。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教師による「授業改善」及び生徒による「学習改善」を充実します。

ウ ICT を積極的に活用した教育活動を実現します。特に生徒が主体的に ICT を使う場面を創出します。

エ 城北スマイルプロジェクトやグローバル科の行事を通して、地域やグローバルな舞台で活躍する人々と積極的に交流します。

オ 世界中の様々な人々と協働していく力を身に付けるための英語授業を展開します。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
つながる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を承認し励ますボイス・シャワーを実践する教員 90% ・学校生活で自分に自信を持てたことがあった生徒 80% ・クラスで友人と協力し合う関係を築けた生徒 95% ・自分の考えを説明し表現する力が身についた生徒 85% ・誰に対しても自分から先に挨拶できる生徒 90% ・ルールやマナーを守っている生徒 100% ・交通事故件数(R5 21)、交通違反者数(R5 136)が前年度より減少 ・いじめ認知件数(R5 0)、問題行動(R5 5)が前年度より減少 	<ul style="list-style-type: none"> 95.1% 全体 78.9% 1年 82% 2年 75% 3年 80% 全体 97.7% 1年 97% 2年 98% 3年 98% 全体 82.1% 1年 80% 2年 84% 3年 83% 全体 63.5% 1年 58% 2年 68% 3年 64% 全体 98% 1年 96% 2年 98% 3年 100% 交通事故 20件 違反者数 135件 いじめ 2件、問題行動 8件 	B	<p>多くの教職員が生徒への肯定的な声掛けを実践している。</p> <p>授業において生徒同士の話し合いやそれぞれの意見の発表など、協働的な学びを実践する教員が増えつつある。教科学習、総合的な探究の時間、クラス活動を通して、生徒同士が周囲との人間関係を築く機会を多く設定している。一方で、集団での活動や発表が苦手な生徒が一定数おり、ICT ツールを活用しながら個々の生徒の実情に対応できるよう心掛けている。</p> <p>挨拶について、達成状況の数値が目標値に及ばなかった。日常生活ではきちんと挨拶ができる生徒の割合は増えている感覚があり、「誰にでも」という点が数値が低かった理由であると推察される。</p> <p>交通違反者の数は減少傾向にあるが、交通安全の啓発、保護者や地域住民との連携により対策を講じ、生徒の自転車利用時の交通ルールを遵守する意識を高めたい。</p> <p>いじめと問題行動の件数の増加の背景に、人間関係の構築における生徒の未熟さを感じられる。コロナ禍の影響があるかもしれないと推察される。自らの言動が周囲や自分自身に与える影響を深く考えることができるよう、生徒を指導していく必要がある。</p>

み つ け る 力 の 育 成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学力の強みと課題を把握している生徒 85% 	<p>全体 80%</p> <p>1年 80% 2年 75% 3年 85%</p>	<p>各学年においてクラス担任が丁寧Cに面談をし、生徒の納得いく進路選択をサポートできるよう努力した。自己の学力の把握について2年生の数値が低いCが、その理由として、1年次より学習内容の難度が高まるCことが挙げられる。2年生に対する丁寧な学習支援が必要である。</p> <p>2、3年生は目標を達成できた。対面だけでなくオンラインでの説会等への参加を促す指導を今後も継続したい。</p> <p>総合的な探究の時間に扱うテーマそのものが自らの進路と直接結びつかない、という点で、探究と進路が結びつかない生徒が多いと考えられる。総合的な探究の時間での学びのプロセスや問題解決のための探究の課程が自らの進路を深く考える際に役立つ、と生徒が実感できるよう、生徒に活動の意義を周知し、活動内容を改善していきたい。</p> <p>総合的な探究の時間での生徒の取組は、地域等への貢献や、ボランティア活動の参加推進に大きく繋がっている。今後も継続して取り組みたい。</p> <p>「図書館だより」による新刊図書Cの紹介や生徒ホールの移動図書館、及び新聞コーナー設置などで、生徒への働きかけを継続したい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路指導計画完成 	<p>各学年の進路指導計画を集約した。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実情に応じて適切な進路先や選抜方法を助言できた教員の割合 90% 	<p>92.7%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 納得のいく類型、科目選択、進路選択ができた生徒 90% 	<p>全体 89.4%</p> <p>1年 90% 2年 87% 3年 92%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス等に参加した生徒 80% 	<p>全体 69%</p> <p>1年 43% 2年 78% 3年 85%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間が、進路目標(志望学部)の具体化に役立ったと感じる生徒 80% 	<p>全体 47.9%</p> <p>1年 39% 2年 43% 3年 61%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動を通して、自分自身や社会の課題に気づき、改善または解決策に関心を持った生徒 75% 	<p>全体 73.4%</p> <p>1年 79% 2年 68% 3年 73%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の指導に積極的に取り組む教員 80% 	<p>70.7%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 授業(教科学習)の中で探究課題を見だし、解決しようと取り組む生徒 75% 	<p>全体 80.3%</p> <p>1年 79% 2年 78% 3年 84%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 2か月に1冊以上の本を読んだ生徒 50% 	<p>全体 29%</p> <p>1年 38% 2年 22% 3年 27%</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・「グローバル科の本」又はグローバルをテーマにした本を読んだ、もしくはグローバル課題探究に必要な論文やネット文献を読んだグローバル科の生徒70% 	<p>全体10%</p> <p>1年10% 2年11% 3年9%</p>		<p>「グローバル科の本」を含め、読書指導について、取組を見直し、生徒の能動的、積極的な活動を促す工夫を考えていく必要がある。</p>
行動する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間 1年生:週840分 2年生:週1300分 ・国公立大学合格者数60人(県内30人)以上 ・土曜講座(1・2年:国・数・英、3年:5教科)、放課後講習(3年:5教科)の実施 ・1部活動1ボランティア(地域・社会貢献活動)全部活動で実施 ・社会貢献活動(ボランティア活動)に参加した生徒90% ・ブロック大会や全国大会へ出場する部活動がある ・撫子チャレンジを活用した生徒20人以上 ・各種コンクール等への自主的な参加、出品者20人以上 	<p>1年達成19.6%</p> <p>2年達成6.1%</p> <p>64人(県内27人)</p> <p>土曜講座(3年生)は国語、数学、理科、情報を実施 放課後講習は数学、英語、理科、地歴を実施</p> <p>全部活動で実施</p> <p>全体30.4%</p> <p>1年34% 2年30% 3年27%</p> <p>ギター部</p> <p>2人</p> <p>出品、参加者129人</p>	C	<p>生徒、保護者が希望する進路目標と実際の学力のギャップを埋める手段として家庭学習習慣が必要であることを、合格体験談や進路講演会などを利用して生徒と保護者に伝え続ける必要がある。同時に、ICTツールも活用しながら本校の生徒の実情に合った課題の設定を各教科で考えていく必要がある。</p> <p>部活動でのボランティア活動を通して多くの生徒は社会貢献活動を体験した。</p> <p>総合的な探究の時間での取組を外部のコンテスト等に応募し、発表する生徒、書道の授業での作品をコンクールに出品する生徒、外国語のスピーチコンテストに参加する生徒などが見られた。</p> <p>中学校での成功体験が少ない生徒、自ら進んで行動することが苦手な生徒が多い。一方で多くの生徒は周囲が動けば自分も動くことができる。このような生徒集団の特性をふまえて、生徒が様々な活動に参加しやすい仕組みを継続して提供しながら、多くの生徒がアクションを起こそうとするための風土づくりに努めたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実践している教員100% 	87.8%		<p>生徒の主体的な学びの実現について、引き続き研修を通して教員が学ぶ機会を確保したい。</p>

考える力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に探究的な問いを取り入れている教員 100% ・生徒が ICT 機器を活用する場面を設けている教員 100% ・総合的な探究の時間で、友人と協働して課題の解決策を考えることができた生徒 90% ・授業を通して考える力が深まったと感じる生徒 95% 	<p>82.9%</p> <p>90.2%</p> <p>全体 86.8% 1年 89% 2年 91% 3年 81%</p> <p>全体 90% 1年 91% 2年 89% 3年 90%</p>	<p>B</p> <p>積極的に ICT 機器を活用し、個に応じた指導に取り組もうとする教員の割合が増えている。</p> <p>職業インタビュー、城北スマイルプロジェクト、修学旅行、進路学習などを通して、生徒は意欲的に課題に取り組み、協働的な学びの実現に繋がった。</p> <p>教科指導を通して生徒の考える力を深めることがある程度できた。</p>
グローバル教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の様々な問題が、自分の生活に関係していることを意識している生徒 80% ・学んだことを生かし、地域社会の問題を解決したいと考える生徒 80% ・グローバル活動に参加した普通科の生徒 50人以上 ・オンライン英会話の全学年導入 ・卒業までに、CEFR B1 (英検 2 級程度) 取得生徒 グローバル科 100%、普通科 20% ・卒業までに、CEFR B2 (英検準 1 級程度) 取得生徒 グローバル科 15% 	<p>全体 78% 1年 79% 2年 72% 3年 82%</p> <p>全体 81.5% 1年 81% 2年 81% 3年 83%</p> <p>92人</p> <p>全生徒が英語の授業でオンライン英会話に取り組んだ。 グローバル科 3年生 69.6% 普通科 3年生 12.6%</p> <p>グローバル科 3年生 8.3%</p>	<p>B</p> <p>全学年全生徒が英語の授業でオンライン英会話に取り組み、様々な民族、宗教、国籍を背景に持つ講師たちとのコミュニケーションを通して異文化に暮らす人々の暮らしや考え方を学ぶ機会を提供できた。2名の長期留学生、2名の短期聴講生が本校に在籍し、日常での交流を通じ、双方にとって視野を広げる良い機会となっている。また、異文化交流活動や総合的な探究の時間での活動を通して、普通科の生徒たちのグローバル意識を高めることができた。</p> <p>実用英語技能検定を受検する生徒をサポートする生徒の英検ボランティア活動が例年通り実施できた。2年生は学年指導として英検対策講習を実施した。検定料の高騰により、以前ほど気軽には受検を勧めにくくなってしまったことが課題である。</p>

安心・安全な学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する言葉遣い、呼称、授業のUD化に配慮している教員 100% 	92.7%	B	<p>授業でのUD化やねらいの明示、ICT機器の効果的な活用による成果が見られた。</p> <p>家庭環境が複雑で家庭に居場所がないと感じる生徒、自分自身を大切にするという意識が希薄な生徒、周囲の人々の気持ちや環境を深く考えることができない生徒が増えている。人権を意識した教育活動への取組の推進を次年度も継続して行っていきたい。</p> <p>教職員のヒヤリ・ハットに係る事例をもとに、再発防止に向けての情報共有をした。</p> <p>次年度に向けて、南海トラフ地震臨時情報への対応について見直す予定である。</p> <p>部活動指導員2人（陸上部、女子ハンドボール部）、スポーツエキスパート1人（弓道部）、文化の匠2人（華道部、箏曲部）を活用し、専門的な技術指導を提供できた。</p> <p>テスト採点システムの導入により採点の効率化が図られ、教員の業務改善につながった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を大切にし、他者の人権を尊重することができた生徒 90% 	ケース会議で取り上げた生徒2人		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議等による組織的な支援で生徒の状況が改善（通級指導の円滑導入） 	通級による指導を年間14回実施した。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の不具合に起因する事故、けが0件 	該当事案0件		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例の共有 	ヒヤリ・ハット報告 3件		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機等発生時対処要項」の追加更新 	「危機等発生時対処要項」を改訂した。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善を実施した分掌・学年 100% 	「やめる」「へらす」「かえる」の観点から、すべての分掌、学年で業務改善に取り組んだ。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家、保護者、地域人材の活用により負担が軽減したと感じる教員 50% 	負担が軽減したと感じる教員 29.3%		
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器活用による事務作業等の軽減 	テスト採点システム「百問繚乱」の導入			

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア つながる力	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感・自己効力感の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で生徒に役割や主体的に行動する機会を与える ・ポジティブ・フォーカスによる勇気づけ ○協働の原則を意識する <ul style="list-style-type: none"> ・教員による挨拶の率先垂範 ・様々な場面で生徒に協働、表現する機会を与える ○対話による生徒指導 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得の浸透 ・学年集会等 ・人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を承認し励ますボイス・シャワーを実践する教員 95% ・学校生活で自分に自信を持てたことがあった生徒 80% ・積極的に挨拶できる生徒 90% ・多様な価値を認め、友人と協力し合う関係を築けた生徒 95% ・自分の考えを説明し表現する力が身についた生徒 85% ・ルールやマナーを守っている生徒 100% ・交通事故件数(R6 20件)、交通違反者数(R6 135人)が前年度より減少 ・いじめ認知件数(R6 2件)はゼロ、問題行動(R6 8件)が前年度より減少
イ みつける力	<ul style="list-style-type: none"> ○自己効力感(自分の強みを知り、自分ならできると思える)に基づく目標設定指導 <ul style="list-style-type: none"> ・進路シラバス見直し ・多様な選抜方法への組織的対応 ・類型・科目選択指導 ・大学出張講座、進路講話等の進路行事の実施 ・放課後講習等の実施 ・低学年からの高い志の育成 ・大学等公開授業、オープンキャンパス ・総合的な探究の時間と進路指導の連携 ・スタディサポート(学びの基礎診断) ○探究活動を通し、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びを取り入れた授業 ・総合的な探究の時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路指導ができていると感じる教員 70% ・生徒の実情に応じて適切な進路先や選抜方法を助言できた教員の割合 95% ・納得のいく類型、科目選択、進路選択ができた生徒 90% ・志望分野を決定した1年生徒 80% ・オープンキャンパス等に参加した2・3年生徒 80% ・総合的な探究の時間が、進路目標(志望学部)の具体化に役立ったと感じる3年生徒 80% ・探究活動を通して、自分自身や社会の課題に気付き、改善または解決策に関心を持った生徒 75% ・探究活動の指導に積極的に取り組む教員 80% ・授業(教科学習)の中で探究課題を見だし、解決しようと取り組む生徒 80%

取組目標		達成方法（取組手段）	成果目標
ウ	行動する力	<p>○失敗をおそれず取り組む生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、学校行事、探究活動、部活動、生徒会活動等 ・様々な場面で生徒に役割や主体的に行動する機会を与える ・生徒の校外活動、各種コンクール等への参加の支援（校外活動の紹介、撫子チャレンジの活用など） <p>○進路目標に向けて行動できる生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、学校行事、探究活動、部活動、生徒会活動等に積極的に取り組んだ生徒 90% ・主体的に行動できている場面があると感じる生徒 70% ・主体性が身に付いたと感じる3年生徒 80% ・ボランティア活動（部活動単位での活動を含む）や校外活動に参加した生徒 80% ・各種コンクール等への自主的な参加、出品者 100人以上 ・家庭学習時間 1年生:週 810分 2年生:週 1000分 ・国公立大学合格者数 60人(県内 30人)以上
エ	考える力	<p>○教員による「授業改善」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現 ・探究的な学びを取り入れた授業 ・ICTの活用(教員が使う、生徒に使わせる) ・総合的な探究の時間の充実 <p>○生徒の「学習改善」を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方法の紹介 ・考える力を深める問いや課題の提供 <p>○読書指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実践している教員 100% ・授業に探究的な問いを取り入れている教員 100% ・生徒が ICT 機器を活用する場面を設けている教員 100% ・総合的な探究の時間で、友人と協働して課題の解決策を考えることができた生徒 90% ・3年間を通して、問題解決能力が高まったと感じる3年生徒 80% ・授業を通して考える力が深まったと感じる生徒 95% ・年間 6冊以上の本を読んだ生徒 50%

取組 目標	達成方法（取組手段）	成果目標
オ グ ロ ー バ ル 力	<p>○Think Globally, Act Locally の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業 ・総合的な探究の時間 <p>・異文化体験研修やグローバルな交流事業等を活用したグローバル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル活動の普通科への波及 <p>○英語力の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の様々な問題が、自分の生活に関係していることを意識している生徒 80% ・学んだことを生かし、地域社会の問題を解決したいと考える生徒 80% ・異文化体験研修等のグローバル教育活動がグローバルな視野の育成に役立ったグローバル科の生徒 90% ・グローバル活動に参加した普通科の生徒 100 人以上 ・卒業までに、CEFR B1（英検 2 級程度）取得生徒 グローバル科 100%、普通科 20% ・卒業までに、CEFR B2（英検準 1 級程度）取得生徒 グローバル科 15%
カ 安 心 ・ 安 全 な 学 校	<p>○心理的安全性の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進 ・特別支援教育の普及と推進 ・通級指導の導入 <p>・生活アンケートの実施</p> <p>○危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の定期点検 ・コンプライアンスの徹底 <p>○業務改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やめる・へらす・かえる」の検討 ・外部人材の活用推進 ・校務への ICT 機器活用推進 ・総務事務の集中化と事務職員の校務参画モデル校事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する言葉遣い、呼称、授業の UD 化に配慮している教員 100% ・自己を大切にし、他者の人権を尊重することができた生徒 90% ・課題を抱えた生徒を組織的に支援（ケース会議を含む）できていると感じる教員 80% ・自分の悩みや不安を打ちあける人や機会・場所がある生徒 90% ・施設、設備の不具合に起因する事故、けが 0 件 ・ヒヤリハット事例の共有 ・「危機等発生時対処要項」の追加更新 ・業務改善を実施した分掌・学年 100% ・業務の効率化を意識して業務にあたっている教職員 100%

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
	<p>・「城北スマイルプロジェクト」：生徒の「考える力」の育成に資するものとして、全学年で総合的な探究の時間に課題設定・解決に取り組み、学年ごとにテーマを深化させた。(通年)</p>	<p>・生徒は「自分・他者・社会」と向き合う探究活動を通して、協働性や課題解決力を高めた。探究の深まりには個人差もあり、評価の在り方や支援体制の工夫が求められる。</p>
	<p>・「なでしこチャレンジサポート事業」：本校後援会が校外プログラムに参加する生徒を経済的に支援し、「つながる力」「みつける力」「行動する力」「考える力」「英語力」の育成を図る制度である。参加費・交通費等の一部(上限1万円)を補助し、生徒の主体的な学びと挑戦を後押しする。(通年)</p>	<p>・校外プログラムへの参加を通して、生徒の視野が広がり、主体性や課題意識の向上が見られた。今後は、得られた成果を全校で共有する仕組みや、事業自体の周知方法の工夫、さらに報告内容の質を高めるための指導体制の充実が求められる。</p> <p><令和6年度実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホバート短期学生派遣事業(2年生1名) ・LGBTQ+理解をテーマとした県外研修会(2年生1名)
令和6年度	<p>・「防災訓練」：南海トラフ地震等の大規模災害に備え、避難経路や帰宅体制を確認する防災訓練を全校で実施。特に、生徒が教員不在時にも自律的に行動できるよう、校風集会委員を避難誘導係として育成することを重視した。避難訓練後には地区別集会を通じて、帰宅グループの編成や防災個票の記入を行った。(5月8日)</p>	<p>・生徒は防災に関する正しい知識を身につけ、避難経路や初期対応の意識が高まった。災害時の安全確保と情報共有体制の重要性を再確認できた。また、校風集会委員が避難誘導の主導を担うことで、生徒自身が防災の主体である意識が育まれた。一方で、さらなる実効性を高めるには、地域や保護者との連携強化、ICTを活用した訓練の工夫が求められる。</p>
	<p>・「部活動の在り方検討」：多様なニーズに対応するとともに、教職員の働き方改革を推進する観点から、部活動の在り方の見直しを進めた。校内規程に基づき、設立・継続・廃止等の基準を明確化し、外部活動や他団体との両立も支援する体制を整備した。(通年)</p>	<p>・生徒の自主性を尊重した活動参加が促進され、部活動の質向上と教職員の業務負担軽減が図られた。一方で、外部活動との調整、部費配分の公平性、同好会設立の明確な基準の運用など、引き続き改善を要する点も見られた。</p>
	<p>・「3年長時間勉強会」：受験に向けた学習姿勢の確立を目指し、3年生希望者を対象に、長時間の自学自習を行う学習会を実施した。各教室を会場とし、8時間を超える自主的な学習に取り組みせることで、計画的・持続的な学習習慣の定着を図った。(6月9日)</p>	<p>・長時間学習を経験することで、集中力の維持や自己管理の意識が高まり、受験に向けた心構えの醸成につながった。一方で、学習の質をさらに高めるには、目標設定や振り返りの支援といった指導体制の工夫が今後の課題である。</p>

令和6年度	<p>・「グローバルな交流」：グローバルな舞台上で活躍する社会人との対談を通して、生徒が多様な価値観や課題解決の視点に触れ、グローバルな視野と思考力を養うことを目的に、グローバル科の生徒を対象とした講演交流会を実施した。講師には、コンサルティング業界で活躍する卒業生を招き、ICT を活用した対話型の学びを展開した。(6月14日)</p>	<p>・実社会で求められる問題解決スキルに触れ、生徒の思考の深まりや学びの言語化が促進された。事前指導や事後の学びの可視化などの工夫がより良くできれば、理解度や対話の質に高まりを得ることができた。</p>
	<p>・「被災地オンライン研修」：「いのちをつなぐ未来館」の語り部によるオンライン講話を実施し、東日本大震災の実体験と復興の歩みを生徒に伝えるプログラムに参加した。被災者の語りを通じ、防災意識と命の尊さを学ぶ機会を創出した。(7月5日)</p>	<p>・実体験に基づく講話により、生徒の防災意識や共感性が高まり、災害への備えの大切さを自分事として捉える契機となった。今後は事前・事後の学習活動を通じて、理解の深化と行動変容につなげる工夫が求められる。</p>
	<p>・「英検面接ボランティア」：グローバルハイスクール事業の一環として、英検2次面接試験の対策支援を目的に、英検合格者からボランティアを募り、放課後に面接練習会を実施した。対象は準2級および2級受験生で、グローバル科・普通科の生徒が参加した。(7月10日)</p>	<p>・生徒同士の協働により英語力や相互支援の姿勢が育まれた。今後は、練習機会の拡充や、より効果的な練習内容の工夫、生徒の主体性を高める仕組みの整備が求められる。</p>
	<p>・「プログラミング出張授業」：プロスペラ学院ビジネス専門学校の講師を招いたプログラミングの出張授業を実施した。JavaScript を用いたプログラミングを通して、生徒がゲームのカスタマイズや基礎的なコード入力を体験し、情報科学分野への興味を高める機会とした。(7月18日)</p>	<p>・身近なゲームを題材とした体験により、生徒の関心を引き出し、プログラミングに対する抵抗感が軽減された。今後は、より多くの生徒に機会を提供する工夫や、体験の成果を進路実現や興味関心の向上につなげる取組が求められる。</p>
	<p>・「英語プレゼン練習会」：外部からネイティブスピーカーやALT を招き、グローバル科2年生が英語によるプレゼンテーションを実施する練習会を開催した。生徒は、探究活動の成果を英語で表現し、質疑応答も含めた実践的な発表経験を積んだ。(7月19日)</p>	<p>・英語で発信する力やプレゼンテーションスキル、質問に即応する力が向上し、生徒の英語に対する自信が育まれた。一方で、表現力に差があるため、個別のスピーキング練習や事前指導のさらなる充実が求められる。</p>
	<p>・「グローバル科サマーセミナー」：グローバル科1年生全員を対象にサマーセミナーを実施。多文化理解講座、プレゼン演習、異文化ワークショップなどを通じて、グローバルマインドと発信力を養成した。(8月6日～8日)</p>	<p>・グループワークやプレゼン発表を通じて、生徒の主体性や協働性、英語で伝える力が高まった。今後は英語活用場面をさらに増やし、成果の継続的な定着と個別の課題意識への働きかけが必要である。</p>

令和6年度	<p>・「中学生一日体験入学」：静岡市民文化会館にて、中学生とその保護者を対象とした一日体験入学を2部制で実施した。生徒による主体的な運営と多様な部活動によるパフォーマンスを通じて、学校の特色と魅力を発信した。(8月1日)</p>	<p>・多くの参加者を迎え、学校への関心を高める機会となった。アンケートからは参加者の具体的な関心や質問が多く寄せられ、学校の特色や教育内容への期待がうかがえた。一方で、普通科の説明不足や開催日時への要望もあり、情報提供や実施方法の見直しが課題である。</p>
	<p>・「短・長期留学生受入」：インドネシアからの短期留学生1名と、台湾からの長期留学生1名を受け入れた。授業や学校行事、日常的な交流を通して、国際理解を深め、英語によるコミュニケーション力と多文化への関心を育んだ。(通年)</p>	<p>・留学生との継続的な交流により、英語力や国際感覚が向上し、多様な価値観を受け入れる姿勢が育まれた。また、教職員にとっても良い学びの機会となった。今後は受入体制のさらなる充実と、生徒の積極的関与を促す仕組みづくりが求められる。</p>
	<p>・「薬学講座」：浜松医科大学の川田一仁准教授を講師に招き、全校生徒対象に「薬物乱用の危険性」や「ウイルス性肝炎」、「ボディピアスやタトゥーによる健康リスク」についての講演を実施した。LHRの時間を活用し、対面またはZoom形式で実施した。(10月9日)</p>	<p>薬物乱用や感染症に対する予防意識を高める契機となったが、講演後の行動変容につなげるためには、事前学習や振り返りを通じた継続的な啓発が必要である。</p>
	<p>・「大学出張講座」：大学講師による出張講座を実施し、進路意識の向上と大学での学びの具体像を理解する機会を提供した。生徒は各自の興味に応じた講義を受け、学問への関心を高めた。(10月30日)</p>	<p>・実際の大学の授業に触れることで進学意欲が高まり、学部選択の視野が広がった。一方で、講座内容の難易度に差があり、理解度に個人差が見られたため、事前ガイダンスや講座選択支援の工夫が求められる。</p>
	<p>・「生命(いのち)のメッセージ展」：交通事故等の犠牲者の等身大パネルを校舎内に展示し、生前の写真・遺族のメッセージ・愛用品を通して命の大切さを伝える啓発活動を行った。展示はNPO法人によって設営・撤去され、静岡県くらし交通安全課の委託で行った。(10月21日～10月25日)</p>	<p>・視覚的に訴える展示により、生徒一人ひとりが命の重みを感じ、交通安全意識の向上につながった。今後は展示に対する生徒の感想を共有する場を設け、より深い内省や行動変容につなげたい。</p>
	<p>・「グローバルな交流」：グローバル科の生徒が、外部講師との対話を通じて国際社会の現場に触れ、自身の視野を広げるとともに、社会課題を主体的に捉え、他者と協働して考える力を育成することを目的に講演会を実施した。(11月1日、12月13日、R7年1月10日)</p>	<p>・国際的な実務経験をもつ講師との対話により、生徒は社会課題への関心を深め、自ら考える姿勢が見られた。今後は、学びの振り返りや発信の機会を設けることで、得た気づきを行動につなげる指導の工夫が求められる。</p>
	<p>・「公開授業」：授業を公開し、並行して学校説明会、グローバル科説明会、個別相談会、「在校生と語る会」などを行った。(11月2日)</p>	<p>・学校全体で協力し、来校者に本校の学びや校風を的確に伝えることができた。参加生徒も主体的に運営に関わったことで、責任感や自律性が育まれた。今後は会場配置や説明内容の工夫、係生徒への事前指導の充実が課題である。</p>

令和6年度	<p>・「海外研修説明会」：グローバル科2年の生徒および保護者を対象に、海外異文化体験に向けた最終説明会を実施した。委託業者による旅行内容の最終確認、ホストファミリーとの過ごし方、保護者の協力事項について説明がなされ、当日の様子はYouTube 配信をした。(11月8日)</p>	<p>・生徒・保護者の不安解消と準備の最終確認ができた一方で、説明内容の理解度を高めるため、事前配布資料や個別対応の充実が求められる。</p>
	<p>・「保育実習講話」：保育実習の一環として、外部講師による講話を実施。乳幼児との関わりや子育ての楽しさに触れながら、少子高齢社会の課題についての認識を深めた。(11月13日)</p>	<p>・保育や子育てに関心を高めるとともに、社会課題への理解を深めるきっかけとなった。今後は生徒の学びの言語化や気づきの共有をさらに充実させる必要がある。</p>
	<p>・「海外異文化体験」：グローバル科2年生40名が、アメリカ・ロスアラミトス市において7泊9日の海外研修を実施した。現地高校での授業参加、ホームステイ、現地生徒とのプレゼンテーション活動、現地での班別活動を通じて、異文化理解と英語運用能力の向上を図った。(11月30日～12月8日)</p>	<p>・異文化の中で自分の価値観を見つめ直し、多角的に物事を考える視点が育まれた。英語での実践的なコミュニケーション経験により、探究活動や表現力の深化にもつながった。一方、語学力の個人差による交流機会の格差や、事前準備・振り返り活動の指導方法については、さらなる工夫と充実が求められる。</p>
	<p>・「静岡大学留学生との交流」：グローバル科1年生42名が、自身の課題研究を英語で発表し、静岡大学の留学生からフィードバックを得た。キャンパスツアーや交流も行い、大学での学びや多様な価値観に触れる機会となった。(12月13日)</p>	<p>・英語での発表を通じて表現力や伝える力が生まれ、多面的な視点を持つ契機となった。今後は、発表内容の質の向上と学びの言語化支援が課題である。</p>
	<p>「行きたい学校づくり」推進事業：「ICT活用による教育手法」をテーマに、全学科・全学年でオンライン英会話（SCMC）を導入し、リアルタイムでの異文化交流を通じて、探究的な問いの設定とその解決に向けた学びを深める取組を実施した。(通年)</p>	<p>・全学年でのSCMC活用により、探究的な対話や異文化理解が促進された。教科横断的な活用は限定的だったが、評価枠組みの検討や活用モデルの構築に向けた基盤づくりが進展した。一方、心理的負担や活用環境の格差が課題となった。</p>

年度	取組概要	成果及び課題
令和7年度	<p>「人間関係作りプログラム」：1年生を対象に、バースデーラインや質問タイム、パートナー紹介などの活動を通して新しいクラスメートと交流し、人間関係づくりのきっかけを提供した。(4月8日)</p>	<p>・生徒は多様な活動を通じて互いを知り、安心感や協働意識を高めることができた。一方で、活動への参加意欲や表現の積極性に差が見られ、今後は個々の特性に応じた関わり方やフォローの工夫が求められる。</p>
	<p>「部活動紹介」：令和7年度より部活動加入が自由化されたことを踏まえ、新入生に向けて、各部活動の代表生徒が活動内容・実績・</p>	<p>・1年生が活動の目的や雰囲気を知ることで、参加意欲が高まり、円滑な部活動加入につながった。一方で、発表時間超過や説明の工夫不足など運営上の課題が見られ、</p>

<p>目標を紹介し、より良い理解を促す機会を設けた。(4月9日)</p>	<p>時間管理やプレゼン指導の充実が必要である。</p>
<p>「不祥事根絶取組計画に基づく研修」：教職員を対象に、不祥事根絶とコンプライアンス徹底を目的とした月ごとの研修・注意喚起を計画的に実施する。(4月～通年)</p>	<p>・職員が研修を通じて個人情報管理や会計処理、ハラスメント防止などの規範意識を共有し、組織としての透明性や信頼性を高めた。一方で、日常的な声かけやルール徹底を継続していく中で、形骸化を防ぐ工夫や参加意識を高める仕組みづくりが課題である。</p>
<p>「交通安全教室」：1年生を対象に、自転車走行時のマナーや危険予測について、交通安全指導員による講義とワークシート活動を行った。(4月16日)</p>	<p>・生徒はスライドやワークシートを通して具体的な交通場面を学び、基本的な交通マナーや安全意識を高めた。一方で、日常の行動に定着させるためには、継続的な指導や登下校時の生活指導との連携が求められる。</p>
<p>「城北祭」：今年度初めて学校の敷地内で実施し、文化部の発表や展示、クラス企画、1年生の装飾などを通じて、生徒が協働しながら学校全体で取り組む生徒主体の文化祭を開催した。(6月6日・7日)</p>	<p>・生徒は舞台発表や展示活動を通して、自分の表現を発信し合い、クラスや委員会で協力する中で「つながる力」や「行動する力」を伸ばした。一方で、準備や片付けにおける時間管理やルール遵守の徹底が課題となり、次年度に向けた改善が求められる。</p>
<p>「ロスアラミトス高校交流」：米国ロスアラミトス高校の生徒を本校に受け入れ、授業参加や部活動体験、ホームステイなどを通じて相互理解を深めた。また、本校生徒がホスト役として英語での交流を担った。(6月12～19日)</p>	<p>・生徒は日常的な学校生活の中で多様な価値観や文化に触れることで、国際理解や英語での発信力を高めた。特にホスト役を務めた生徒は責任感や協働性を培った。一方で、交流の機会が一部の生徒に限定されがちなため、学校全体に還元する仕組みづくりや、事前・事後の学習活動の充実について更なる改善を図りたい。</p>

5 教職員について

(1) 異動状況

(単位：人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員							合計					
	教育職員							行政職員				本 務 計	教 諭 （ 臨 ）	主 事 （ 臨 ）	外 国 語 指 導 講 師	非 常 勤 講 師	非 常 勤 嘱 託 員	非 常 勤 勞 務 職 員		部 活 動 指 導 員	臨 時 計			
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	講 師	養 護 教 諭	主 任 実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 幹	主 査											主 任	主 事	小 計
全 日 制	転出者		1		6			7				1		1	8							0	8	
	退職者				1			1		1				1	2			2	1				3	5
	役職定年							0						0	0								0	0
	転入者		1		3			4		1		1		2	6								0	6
	新任者				1			1						0	1		1	3				1	5	6
	再任用				4			4						0	4								0	4
	差引増減	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	△ 1	0	1	2	3

(2) 現員数

(本務職員)

(令和7年6月30日現在)

区分	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	講 師	養 護 教 諭	主 任 実 習 助 手	事 務 長	主 幹	主 査	主 任	小 計
	全 日 制	男	1	1	1	30		1				
	女				15	1	1	1	1	2	1	22
合 計		1	1	1	45	1	1	1	1	2	1	56

※(再掲) 暫定再任用教諭：8人(内 週19時間25分：4人)

(臨時・会計年度任用職員等)

区分	教 諭 （ 臨 ）	主 事 （ 臨 ）	外 国 語 指 導 講 師	非 常 勤 講 師	部 活 動 指 導 員	非 常 勤 勞 務 職 員	小 計	合 計
全 日 制	男			3	3	2	8	42
	女	1	1	1	4	1	8	30
合 計		1	1	1	7	3	16	72

(3) 健康管理について

ア 教職員の精神的・身体的健康の維持を図っている。

イ 定期健診である生活習慣病健診・人間ドック・指定年齢健診を積極的に受診させ、教職員の疾病の早期発見、早期治療に努めている。また、必要に応じて教職員の健康相談・保健指導や臨床心理士によるカウンセリングの紹介をした。

ウ メンタルヘルスの保持、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、特に、長期休暇前には、計画的な休暇取得の促進を奨励している。

	令和6年度	令和7年度
実績	<p>学校職員衛生委員会を毎月開催し、教職員の安全と健康について課題を確認し、その解決に努めた。</p> <p>施設安全点検を実施し、安全管理上問題がある可能性がある箇所を確認し、改善した。</p> <p>教職員サッカー大会、教職員バスケットボール大会への参加し親睦を深めた。</p> <p>過重労働防止の観点から、令和6年度夏季休業期間から、平日完全退庁時刻を20時00分に設定した。</p> <p>夏季休業中の休暇取得促進日について周知し、積極的に休暇を取るよう呼び掛けた。</p>	<p>学校職員衛生委員会を毎月開催し、教職員の安全と健康について課題を確認する。</p> <p>施設安全点検を年2回実施し、安全管理上問題がある箇所の確認、改善に向けて計画的に実施する。</p> <p>年間を通じて学校支援心理アドバイザー派遣事業を利用し、生徒保護者への対応等、教職員が相談できる場を提供している。</p>

(4) 教職員の研修について

年度	研修の目的	研修内容	成果、課題
令和6年度	ア主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 4月3日 教育情報セキュリティ研修 	<ul style="list-style-type: none"> 情報資産の取扱いと管理の規定を確認し、個人所有端末使用時と情報資産持ち出し時の手続きと注意事項について理解した。
	イ各種研修への参加促進	<ul style="list-style-type: none"> 6月11日～6月21日 授業公開週間 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間を設定し、教職員がお互いの授業を自由に見学した。ICT機器の活用についてヒントを得る機会となった。また、事務職員が授業を見学する機会にもなった。
	ウ不祥事根絶と生徒理解、人権意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 7月12日 「主体的・対話的で深い学び」を支える授業研究を実施し、授業改善と学習評価の充実を目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本史探究」の授業を見学し、授業時間をとおして個々の生徒の変容を観察した。研究協議においては、各教員が観察した生徒の様子を報告し、ロイロノートを利用した個別最適な学びの実現の可能性について、その効果を共有した。
	エ教育実習の円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> 7月23日 教職員の服務と施設管理に関する研修 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休暇に際して、綱紀の厳正な保持、交通安全意識の徹底、情報及び公文書の適正管理、部活動での安全管理の徹底について注意を促した。
		<ul style="list-style-type: none"> 新時代のリーダーとなる高校教員育成研修 	<ul style="list-style-type: none"> 充実発展期1人を推薦し、1年間の研修に取り組んだ。
		<ul style="list-style-type: none"> 6月28日 AED、エピペン講習 	<ul style="list-style-type: none"> 本校保健体育科教諭が講師となり、教職員がAEDとエピペンの使用方法について講習を受けた。校内でのAEDの設置場所を確認し、使用の際の注意事項を理解することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生の研究授業指導と教科研究会 	<ul style="list-style-type: none"> 6月に4人の実習生を受け入れ、各教科で研究授業と教科研究会を行った。
		<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの分析による授業改善への取組 	<ul style="list-style-type: none"> 7月初旬に生徒を対象に授業評価アンケートを実施した。授業を通じて「行動する力」を醸成することが優先的な改善点であることが確認できた。
		<ul style="list-style-type: none"> 9月20日 指導主事定期訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 理科と情報科の指導主事の定期訪問を受け、研究授業とICT活用に関する校内研修を行った。
		<ul style="list-style-type: none"> 11月7日 「行きたい学校づくり」推進事業に伴う第1回校内研修 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の趣旨とゴールイメージを全教員で確認した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・12月10日 「行きたい学校づくり」推進事業に伴う第2回校内研修 ・1月10日 「行きたい学校づくり」推進事業に伴う第3回校内研修 ・2月6日 「行きたい学校づくり」推進事業に伴う第4回校内研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の目的と本校における目標やあり方について全教職員で共有した。 ・上智大学の新教授を招き、総合的な探究の時間において生徒に身に付けさせたい資質能力について理解した。 ・第3回の校内研修を受け、本校生徒に身に付けさせたい資質能力を整理した。
令和7年度	<p>ア主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進</p> <p>イ各種研修への参加促進</p> <p>ウ不祥事根絶と生徒理解、人権意識の高揚</p> <p>エ教育実習の円滑な運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月24日 5月30日 6月26日 コンプライアンス研修 ・5月30日 働き方改革・業務改善研修 ・5月30日 教科指導におけるICT活用研究ワーキンググループ(WG)の設置 ・6月20日 働き方改革・業務改善に係るチーム研修 ・教育実習生の研究授業指導と教科研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの徹底、わいせつ行為の根絶、体罰の根絶について、定例の職員会議ごとに研修を行った。 ・総合教育センター長期研修員を招いて、業務改善の意義やあり方について共有した。 ・生徒の関心や深い思考を引き出すICT親和型題材の授業実践を推進するため、各教科から一人を任命しワーキンググループを設置した。 ・総合教育センター長期研修員を招いて、本校グラウンドデザイン達成のための業務改善の具体的な手法について協議した。 ・6月に4人の実習生を受け入れ、各教科で研究授業と教科研究会を行った。

6 防災対策について

年度	指導目標	取組内容	成果、課題
令和6年度	ア安全な学習環境の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生用の防災食品・飲料の購入と、防災用品、備蓄食料等の保管場所の確認 ・ 危機管理マニュアルの改訂 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災食品と飲料の賞味期限を確認し、新入生分を新たに購入した。 ・ 県の指導に従い、校内危機管理マニュアルの改訂を行った。熱中症対応をフローチャートにまとめ、対応方法が一目でわかるよう工夫した。
	イ大規模災害発生時の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月8日の訓練では、地震発生を想定した避難訓練と地区別集会を実施した。地震や大雨による災害発生時に居住地や通学路で想定される被害をグループで考え、共有した。12月11日に2回目の防災訓練を実施した。
	ウ地域と連携した防災対策拠点作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域防災連絡会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政・地域・学校の三者による連絡会議を11月に行った。避難所設営についての協議や、避難所として使用される体育館の点検や体育館周辺の利用方法を検討。
	エ防災人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災担当生徒の任命 ・ 地域防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の委員会活動として従来からある校風集会委員を、防災担当に任命した。生徒の防災意識の高揚や避難訓練での誘導などの仕事を担当している。 ・ 学校行事や定期テストの時期ではあるが、できるだけ多くの生徒が参加できるよう呼びかけを行った。

令和7年度	ア安全な学習環境の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生用の防災食品・飲料の購入と、防災用品、備蓄食料等の保管場所の確認 ・危機管理マニュアルの改訂 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災食品と飲料の賞味期限を確認し、新入生分を新たに購入した。今年から防災リュックに防災用品が入ったものに変更した。 ・県の指導に従い、校内危機管理マニュアルの改訂を行った。学校医の変更や電話番号の修正なども行った。
	イ大規模災害発生時の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月30日の訓練では、地震発生を想定した避難訓練と地区別集会を実施した。地震や大雨による災害発生時に居住地や通学路で想定される被害をグループで考え、共有した。12月10日に2回目の防災訓練を予定している。
	ウ地域と連携した防災対策拠点作り	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災連絡会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政・地域・学校の三者による連絡会議を11月に行う。避難所設営についての協議や、避難所として使用される体育館内のエリア区分を検討予定である。
	エ防災人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・防災担当生徒の任命 ・地域防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の委員会活動として従来からある校風集会委員を、防災担当に任命した。生徒の防災意識の高揚や避難訓練での誘導などの仕事を担当している。 ・学校行事や定期テストの時期ではあるが、できるだけ多くの生徒が参加できるよう呼びかけを行う。

7 学校開放について

学校運営に支障のない範囲で、運動場・テニスコートなどを地域に開放している。

施設名	令和6年度			令和7年6月30日現在			利用種目	備考
	利用団体数	利用回数	利用者数	利用団体数	利用回数	利用者数		
運動場	2	93回	2,460人	2	24回	662人	ソフトボール サッカー	利用者負担金 (電気料金) R6 157,651円 R7 42,843円
テニスコート	2	47回	1,035人	1	5回	144人	テニス	
体育館	6	175回	2,062人	7	66回	805人	新体操 ハンドボール バスケットボール	
校舎	1	18回	6,723人	1	3回	876人	PTA 主催事業	
計	11	333回	12,280人	11	98回	2,487人		

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） いじめ防止対策推進法（第2条、第8条、第13条、第15条、第16条、第18条、第19条、第22条、第23条、第25条、第28条、第30条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 高等学校等就学支援金の支給に関する法律（第6条） 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第33条）

□□□□□

学校施設の概要

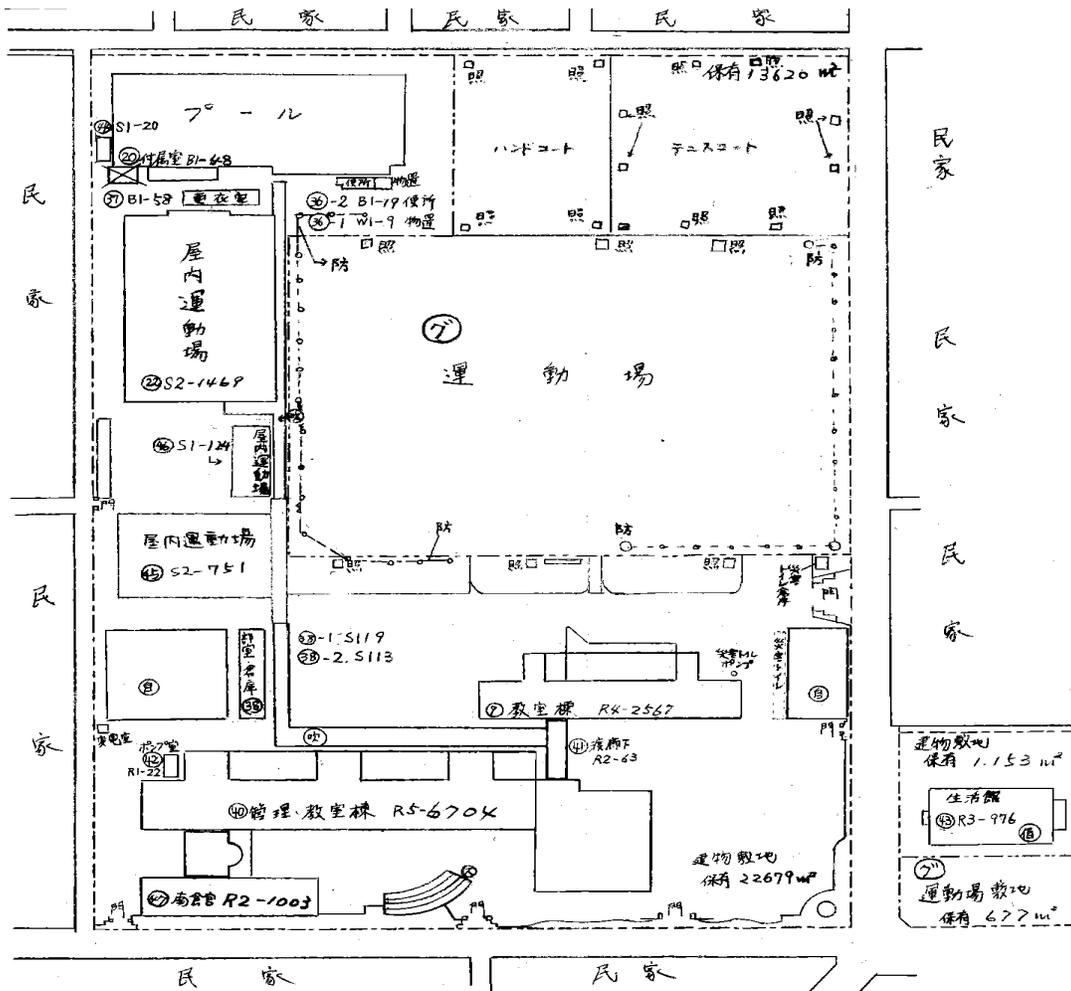
(令和7年6月30日現在)

1 面積及び所有区分

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳		摘 要
		県 有 m ²	後援会有 m ²	
学校敷地	36,298.71	36,298.71		
内 訳	校舎敷地	20,849.01	20,849.01	
	運動場敷地	13,619.70	13,619.70	
	その他の敷地	1,830.00	1,830.00	
校 舎	建 3,584.63	建 3,584.63	建	
	延 10,336.55	延 10,336.55	延	
体 育 館	建 2,435.89	建 2,435.89	建	
	延 2,357.69	延 2,357.69	延	
その他の建物	建 1,907.47	建 1,854.82	建 52.65	
	延 2,564.19	延 2,511.54	延 52.65	
生 活 館	建 419.08	建	建 419.08	
	延 976.59	延	延 976.59	
プ ー ル	1,560.00	1,560.00		7コース×50メートル

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	36,298.71 m ²	10,336.55 m ²	13,619.70 m ²
県平均	45,574.48 m ²	9,782.41 m ²	22,506.84 m ²

□□□□□

在 籍 生 徒 調

(令和7年6月30日現在)

学年	課 程		全 日 制											
			普 通 科				グロ-バル科				(合 計)			
	区分	学科別	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
1 年	入 学 者		200	92	115	207	40	8	32	40	240	100	147	247
		増 加			(1)	(1)							(1)	(1)
		減 少												
	現 在			92	116	208		8	32	40		100	148	248
2 年	入 学 者		200	101	104	205	40	7	34	41	240	108	138	246
		増 加												
		減 少		2	1 (1)	3 (1)			1	1		2	2 (1)	4 (1)
	2 年時当初			99	102	201		7	33	40		106	135	241
		増 加												
		減 少												
現 在			99	102	201		7	33	40		106	135	241	
3 年	入 学 者		200	90	115	205	40	8	33	41	240	98	148	246
		増 加												
		減 少		3	3	6		1	1	2		4	4	8
	2 年時当初			87	112	199		7	32	39		94	144	238
		増 加						1		1		1		1
		減 少			1	1							1	1
	3 年時当初			87	111	198		8	32	40		95	143	238
		増 加							(1)	(1)			(1)	(1)
減 少														
現 在			87	111	198		8	33	41		95	144	239	
合 計			600	278	329	607	120	23	98	121	720	301	427	728

□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分	令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			
	普通科	グローバル科	計	普通科	グローバル科	計	普通科	グローバル科	計	普通科	グローバル科	計	普通科	グローバル科	計	
生徒定員 (A)	200	40	240	200	40	240	200	40	240	200	40	240	200	40	240	
募集者数 (B)	200	40	240	200	40	240	200	40	240	200	40	240	200	40	240	
志願者数	男	92 (0)	9 (0)	101 (0)	115 (0)	8 (0)	123 (0)	112 (0)	9 (0)	121 (0)	107 (0)	12 (0)	119 (0)	109 (0)	11 (0)	120 (0)
	女	121 (0)	32 (0)	153 (0)	150 (0)	33 (0)	183 (0)	133 (0)	39 (0)	172 (0)	114 (0)	40 (0)	154 (0)	135 (0)	32 (0)	167 (0)
	計 (C)	213 (0)	41 (0)	254 (0)	265 (0)	41 (0)	306 (0)	245 (0)	48 (0)	293 (0)	221 (0)	52 (0)	273 (0)	244 (0)	43 (0)	287 (0)
受検者数	男	91 (0)	9 (0)	100 (0)	115 (0)	8 (0)	123 (0)	111 (0)	9 (0)	120 (0)	107 (0)	12 (0)	119 (0)	109 (0)	11 (0)	120 (0)
	女	120 (0)	32 (0)	152 (0)	150 (0)	33 (0)	183 (0)	133 (0)	39 (0)	172 (0)	113 (0)	40 (0)	153 (0)	135 (0)	32 (0)	167 (0)
	計 (D)	211 (0)	41 (0)	252 (0)	265 (0)	41 (0)	306 (0)	244 (0)	48 (0)	292 (0)	220 (0)	52 (0)	272 (0)	244 (0)	43 (0)	287 (0)
合格者数	男	87 (0)	9 (0)	96 (0)	84 (0)	8 (0)	92 (0)	90 (0)	8 (0)	98 (0)	101 (0)	7 (0)	108 (0)	92 (0)	8 (0)	100 (0)
	女	118 (0)	32 (0)	150 (0)	121 (0)	32 (0)	153 (0)	115 (0)	33 (0)	148 (0)	104 (0)	34 (0)	138 (0)	115 (0)	33 (0)	148 (0)
	計 (E)	205 (0)	41 (0)	246 (0)	205 (0)	40 (0)	245 (0)	205 (0)	41 (0)	246 (0)	205 (0)	41 (0)	246 (0)	207 (0)	41 (0)	248 (0)
志願倍率 (C) / (B)	1.07	1.03	1.06	1.33	1.03	1.28	1.23	1.20	1.22	1.11	1.30	1.14	1.22	1.08	1.20	
受検倍率 (D) / (B)	1.06	1.03	1.05	1.33	1.03	1.28	1.22	1.20	1.22	1.10	1.30	1.13	1.22	1.08	1.20	
入学者数	男	87	9	96	84	8	92	90	8	98	101	7	108	92	8	100
	女	118	32	150	121	32	153	115	33	148	104	34	138	115	32	147
	計 (F)	205	41	246	205	40	245	205	41	246	205	41	246	207	40	247
充足率 (F) / (A)	1.03	1.03	1.03	1.03	1.00	1.02	1.03	1.03	1.03	1.03	1.03	1.03	1.03	1.04	1.00	1.03

□□□□□

卒業生の動向調

1 進路状況

学 科 別		普通科			国際科・グローバル科			計			
年 度		4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	
卒業生徒数		243	193	197	34	38	36	277	231	233	
内 訳	(進学志願者)	(242)	(189)	(197)	(34)	(37)	(36)	(276)	(226)	(233)	
	進 学 者	大学・短大	213	159	157	30	31	30	243	190	187
		専修・各種学校等	20	27	30	3	3	3	23	30	33
		小 計	233	186	187	33	34	33	266	220	220
	就 職 者	1	4	0	0	1	0	1	5	0	
	自 営 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	進学準備者	9	3	10	1	3	0	10	6	10	
	そ の 他	0	0	0	0	0	3	0	0	3	
合 計		243	193	197	34	38	36	277	231	233	

2 求人状況(全日制のみ)

区 分	4年度	5年度	6年度
就職希望者数	0	0	0
求 人 数	90	134	157
求 人 倍 率	0.0	0.0	0.0

3 資格取得状況

(令和5年度)

学 科 別		普通科	グローバル科	(計)
卒業生徒数		197	36	233
資格の 取得状況 (種別)	実用英語技能検定 準1級	0	3	3
	” 2 級	19	22	41
	” 準2級	23	5	28
合 計		42	30	72

□□□□□

生 徒 の 状 況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年6月30日現在) (単位:人)

市町名	静岡市	焼津市	藤枝市	島田市	その他	合 計
生徒数	675	19	15	7	12	728
構成比%	92.7	2.6	2.1	1.0	1.6	100%

(2) 通学方法 (令和7年6月30日現在) (単位:人)

区 分	徒 歩	自 転 車	バ ス	電 車	その他	合 計
生徒数	22	594	17	89	6	728
構成比%	3.0	81.6	2.4	12.2	0.8	100%

2 部 (クラブ) の加入状況

(令和7年6月30日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		10	10		20
男子	1 年	74	17	9	100
	2 年	55	35	16	106
	3 年	48	24	23	95
	計(A)	177	76	48	301
	構成比	58.8	25.3	15.9	100%
女子	1 年	48	81	19	148
	2 年	33	92	10	135
	3 年	34	77	33	144
	計(B)	115	250	62	427
	構成比	27.0	58.5	14.5	100%
合計	(A+B)	292	326	110	728
	構成比	40.1	44.8	15.1	100%

□□□□□

授 業 料 収 納 状 況 調

(全日制)

(令和6年度)

期別	月別	調定の状況						収納の状況				異動者等の状況		
		1年		2年		3年		計		納期内収納額 円	収納率 %		納期後 収納額 円	収入 未済額 円
		人員	調定額 円	人員	調定額 円	人員	調定額 円	人員	調定額 円					
一期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円		円	円	A. 期首収納権利発生額＝ 5,464,800 円 (184人×9,900円×3月) B. 収納権利増減(▲)額＝ 0 円 <内訳>: 7月25日:1年:就学支援金受給資格消滅 1 1×9,900円×3月＝ 29,700 円 8月14日:1年:就学支援金受給資格認定 1 1×▲9,900円×3月＝ ▲29,700 円 C. 収納必要額A(±)B＝ 5,464,800 円
	5													
	6													
	7	70 1	2,079,000 29,700	56	1,663,200	58	1,722,600	184 1	5,464,800 29,700	5,435,100 29,700	99.5 100.0		29,700 0	
	8	▲1	▲29,700					▲1	▲29,700	▲29,700		29,700		
	計	70	2,079,000	56	1,663,200	58	1,722,600	184	5,464,800	5,435,100	99.5	29,700	0	
二期	7												A. 期首収納権利発生額＝ 9,424,800 円 (190人×9,900円×5月)+(1人×9,900円×2月) B. 収納権利増減(▲)額＝ ▲59,400 円 <内訳>: 10月28日:2年:就学支援金遡及認定 1 1×▲9,900円×5月＝ ▲49,500 円 10月31日:2年:退学 1 1×▲9,900円×1月＝ ▲9,900 円 C. 収納必要額A(±)B＝ 9,365,400 円	
	8													
	9													
	10	71	3,514,500	54	2,673,000	66	3,237,300	191	9,424,800	9,276,300	98.4			148,500
	11			▲1 ▲1	▲49,500 ▲9,900			▲1 ▲1	▲49,500 ▲9,900	▲49,500 ▲9,900		148,500		
	計	71	3,514,500	52	2,613,600	66	3,237,300	189	9,365,400	9,216,900	98.4	148,500		0
三期	12												A. 期首収納権利発生額＝ 7,444,800 円 (188人×9,900円×4月) B. 収納権利増減(▲)額＝ 円 <内訳>: C. 収納必要額A(±)B＝ 7,444,800 円 D. 収納必要額＝ 22,275,000 円	
	1	71	2,811,600	52	2,059,200	65	2,574,000	188	7,444,800	7,365,600	98.9	79,200		
	2											79,200		
	3													
	計	71	2,811,600	52	2,059,200	65	2,574,000	188	7,444,800	7,365,600	98.9	79,200		0
合計		212	8,405,100	160	6,336,000	189	7,533,900	561	22,275,000	22,017,600	98.8	257,400	0	

□□□□□

授 業 料 収 納 状 況 調

(令和7年度)
(令和7年6月30日現在)

(全日制)

期別	月別	調定の状況								収納の状況			異動者等の状況	
		1年		2年		3年		計		納期内収納額 円	納期後 収納額 円	収 入 未 済 額 円		
		人員 人	調定額 円	人員 人	調定額 円	人員 人	調定額 円	人員 人	調定額 円					収納 率 %
一 期	4												A. 期首収納権利発生額＝	円
	5												B. 収納権利増減(▲)額＝	円
	6												<内訳>:	
	計												C. 収納必要額A(±)B＝	円
二 期	7												A. 期首収納権利発生額＝	円
	8												B. 収納権利増減(▲)額＝	円
	9												<内訳>:	
	10													
	11													
	計												C. 収納必要額A(±)B＝	円
三 期	12												A. 期首収納権利発生額＝	円
	1												B. 収納権利増減(▲)額＝	円
	2												<内訳>:	
	3													
	計												C. 収納必要額A(±)B＝	円
合計													D. 収納必要額＝	円

□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	6年度	7年度（令和7年6月30日現在）
	件 数	件 数
高等学校入学検定料	300	0

□□□□□

預 金 調

(令和7年6月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
静岡銀行 北安東支店	無利息型 普通預金	0112553	静岡県立静岡 城北高等学校 資金前渡者 渡辺賢一	10,000	交際費・給料 振込口座 税金払込口座
静岡銀行 北安東支店	無利息型 普通預金	0281275	(自振口) 静岡県立静岡 城北高等学校 資金前渡者 渡辺賢一	0	公共料金等 引落口座
残 高 合 計				10,000	

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、前年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		1,040,600	
計					922,350	1,040,600	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		0	
計					7,314,175	0	0
(16) 公有財産購入費							
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		693,000	
計					425,480	693,000	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		62,972,400	
計					65,234,500	62,972,400	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年6月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、前年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	141,680	
計					141,680	0
(14) 工事 請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	0	
計					0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	17,200	
計					17,200	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						
計					0	0

□□□□□

委託料に関する調

(令和6年度)

整理 番号	委託業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期間	支出 年月日	金額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	(事務関係) 自家用電気 工作物保安 管理業務	北川電気保安 管理事務所 北川貴雄	円 869,000	円 826,650	円 84,810	円 911,460	随契	6.4.1 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.10 小計	円 62,150 62,150 70,840 70,840 112,090 108,350 70,840 70,840 70,840 70,840 70,840 70,840 70,840 70,840 70,840 70,840 70,840 911,460	静岡城北高校 需要設備容量 350KVA(~6年5月) 560KVA(6年6月~)	随契 1号 (少額)
2	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社 総合美装 ワタナベ	95,700	95,700	0	95,700	随契	6.11.22 7.3.21	7.3.19	95,700	産業廃棄物の 収集運搬処分業務	随契 1号 (少額)
3	産業廃棄物 収集運搬業務	日本産業 廃棄物処理 株式会社	20,240	20,240	0	20,240	随契	6.12.2 7.3.11	7.2.25	20,240	産業廃棄物の 収集運搬業務	随契 1号 (少額)
4	産業廃棄物 処分業務	株式会社 太洋 サービス	13,200	13,200	0	13,200	随契	6.12.2 7.3.25	7.2.28	13,200	産業廃棄物の 処分業務	随契 1号 (少額)
	事務関係計	4件								1,040,600		
	合計	4件								1,040,600		

参考	(事務関係) 1 消防用設備等 保守点検業務 委託	有限会社 コーセイ産業	/	7,117,792	△ 1,478	7,116,314	/	6.4.1 7.3.31	/	/	静岡東高校外7校 機器・総合点検1回 機器点検1回 防火設備点検1回	静岡東 高校
2	プール浄化 装置保守点検 業務委託	大学産業 株式会社	/	739,200	△ 61,600	677,600	/	6.4.15 6.11.15	/	/	静岡西高校外10校 始業点検 1回 終了点検 1回	静岡西 高校
3	警備業務委託	エスピートム 株式会社	/	11,088,000	42,900	11,130,900	/	1.10.1 6.9.30	/	/	駿河総合高校外13校 機械警備業務	駿河総合 高校
4	警備業務委託	エスピートム 株式会社	/	12,999,360	0	12,999,360	/	6.10.1 11.9.30	/	/	駿河総合高校外13校 機械警備業務	駿河総合 高校
5	可燃物収集 運搬処分業務 委託	株式会社 静岡清掃企業	/	運搬料1回あたり 15,950円 処分料11.0円/kg	0	運搬料1回あたり 15,950円 処分料11.0円/kg	/	6.4.5 7.3.31	/	/	静岡農業高校外12校 可燃物収集運搬処分 業務	静岡農業 高校
6	建築基準法第 12条に基づく定 期点検業務委託	合同会社 石橋剛設計事務所	/	3,850,000	0	3,850,000	/	6.8.13 7.1.31	/	/	建築基準法第12条に 基づく定期点検業務	静岡商業 高校
	合計	6件										

□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)
(令和7年6月30日現在)

整理 番号	委託業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更 増減額	計						
1	(事務関係) 自家用電気 工作物保安 管理業務	北川電気保安 管理事務所 北川貴雄	円 996,600	円	円	円	随契	7.4.1	7.5.30	70,840	静岡城北高校 需要設備容量 560KVA 静岡高校 需要設備容量 600KVA 月次点検年11回 年次点検年1回	随契 1号 (少額) 静岡高校
				928,840	0	928,840		8.3.31	7.6.30	70,840		
	事務関係計	1件								141,680		
	合 計	1件								141,680		

参考	(事務関係)											
1	消防用設備等 保守点検業務 委託	有限会社 コーセイ産業		8,067,345	0	8,067,345		7.4.1			静岡東高校外7校 機器・総合点検1回 機器点検1回 防火設備点検1回	静岡東 高校
2	プール浄化装 置保守点検業 務委託	三笠産業 有限会社		774,400	0	774,400		7.4.14			静岡西高校外9校 始業点検 1回 終了点検 1回	静岡西 高校
3	警備業務委託	エスピートム 株式会社		12,999,360	0	12,999,360		6.10.1			駿河総合高校外13校 機械警備業務	駿河総合 高校
4	可燃物収集 運搬処分業務 委託	株式会社 静岡清掃企業		運搬料1回あたり 18,000円 処分料15.0円/kg	0	運搬料1回あたり 18,000円 処分料15.0円/kg		7.4.7			静岡農業高校外12校 可燃物収集運搬処分 業務	静岡農業 高校
	計	4件						8.3.31				

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	会議参加費	全国高等学校長協会総会・研究協議会	円 4,000	6.5.2
2	全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会参加費	独立行政法人大学入試センター	会議参加費	全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会	3,000	6.5.15
3	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会会長	会議参加費	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会	2,000	6.7.4
4	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会会長	会議参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	2,000	6.7.4
5	全国英語科・国際科高等学校長会年会費	全国英語科・国際科高等学校長会理事長	会規約	全国英語科・国際科高等学校長会	20,000	6.7.12
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	15,909,300	6.7.31
7	全国普通科高等学校長会総会・研究協議会参加費	全国普通科高等学校長会	会議参加費	全国普通科高等学校長会総会・研究協議会大会	6,000	6.8.21
8	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700	6.8.30
9	全国英語科・国際科高等学校長会秋季総会・研究協議会参加費	全国英語科・国際科高等学校長会理事長	会議参加費	全国英語科・国際科高等学校長会秋季総会・研究協議会	5,000	6.9.13
10	全国英語教育研究大会参加費	全国英語教育研究団体連合会	会議参加費	全国英語教育研究大会	6,000	6.10.10
11	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	26,066,700	6.10.31
12	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	6.11.21
13	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	20,869,200	7.1.31
計		13件			62,972,400	

□□□□□

負担金支出調

(令和7年度)
(令和7年6月30日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会総 会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	会議参加費	全国高等学校長協会総 会・研究協議会	円 4,000	7.4.28
2	特別管理産業廃棄物管理 責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃 棄物処理振興センター	廃棄物の処理及 び清掃に関する 法律	特別管理産業廃棄物管理 責任者講習会	13,200	7.5.9
計		2件			17,200	

□□□□□

建 築

整理 番号	予算 科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
		該当なし		円	円	円	円
		計	件				

整理 番号	予算 科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
		該当なし		円	円	円	円
		計	件				

(参考)

整理 番号	予算 科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
1	教育管理費	令和7年度 富士宮 北高等学校ほか賃貸 借空調設備移設工事	静岡市葵区 北安東地内	95,040,000	95,040,000		95,040,000

工 事 調

(令和6年度)

契約 締結 方法	受注者	着 手 完 成 (予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
			円			

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

契約 締結 方法	受注者	着 手 完 成 (予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
			円			

契約 締結 方法	受注者	着 手 完 成 (予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
随意契約	大和エネルギー株式会社	着手 7. 4. 17 完成 7. 9. 26		普通教室空調リース事業にて設置 した空調設備の移設 移設元 移設先 富士宮北高校 → 静岡城北高校	予	本庁経理分 教育施設課

□□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量 又は 面積	台帳 価格	数量 又は 面積	台帳 価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 6,097,587		千円 12,568		千円 44,041		千円 6,066,114	
土 地	36,298.71 m ²	5,493,284	m ²	0	m ²		36,298.71 m ²	5,493,284	
立 木 竹	222 本	9,584	本	0	本		222 本	9,584	
建 物	建 7,875.34 m ² 延 15,205.78 m ²	558,142	m ² m ²		m ² m ²	40,504	建 7,875.34 m ² 延 15,205.78 m ²	517,638	
工 作 物	122 個	36,577	7 個	12,568		3,537	129 個	45,608	
公有財産に 準ずるもの		230						230	
電話加入権	5 件	230					5 件	230	

(令和7年度中増減なし)

□□□□□

借 地 借 家 等 調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	雑屋建	静岡市葵区北安東 2-3-1		S1	52.65 m ²		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	弓道場 (的場)
2	建物	事務所建	静岡市葵区北安東 2-3-1		RC3	建419.08 m ² 延976.59		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	生活館
小計					-	1,029.24 m ²					
3	工作物	囲障	静岡市葵区北安東 2-3-1			19.9 m		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	生活館西側 フェンス
4	工作物	囲障	静岡市葵区北安東 2-3-1			37.3 m		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	生活館北側 フェンス
5	工作物	貯槽	静岡市葵区北安東 2-3-1			1 個		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	生活館 受水槽
6	工作物	照明装置	静岡市葵区北安東 2-3-1			2 個		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	照明灯
7	工作物	雑工作物	静岡市葵区北安東 2-3-1			8 個		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	自転車置場・時計塔・記念石碑・彫像・藤棚・弓道場防矢柱・防矢板・校訓碑
8	工作物	雑工作物	静岡市葵区北安東 2-3-1			8 個		無償	7.4.1 12.3.31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会	物置8個
9	工作物	冷暖房装置	静岡市葵区北安東 2-3-1			2 個		474,084	3.7.1 16.6.30	三井住友ファイナンス&リース	普通教室空調
10	工作物	冷暖房装置	静岡市葵区北安東 2-3-1			16 個		4,946,476	6.7.1 19.6.30	NTT・TCリース株式会社 静岡支店	特別教室空調
小計					-	57.20 m 37 個					
合計					-	1,029.24 m ² 57.20 m 37 個					

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数 又 面	量 は 積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期	貸付又は使 用許可を 受けた者 の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況			単 価	年 額			
1	土地	学校敷地	静岡市葵区北安東2-3-1	学校敷地	学校敷地		本 17	円 1,500	円 25,500	R3. 4. 1 ～ R8. 3. 31	西日本電信電話(株)静岡支店長	電柱11本 支線5条 支線柱1本
2	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		0.25	-	免除	R7. 4. 1 ～ R10. 3. 31	静岡市長	カーブミ ラー 設置
3	建物	事務所建	"	SRC 5階建			1.00	-	免除	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会長	公衆電話設 置
4	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		15.01	-	免除	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	静岡市長	防災倉庫
5	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		0.60	-	免除	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	静岡市長	避難地 標識板
6	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		4.52	-	免除	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	静岡市長	同報無線 子局
7	建物	事務所建	"	SRC 5階建			0.03	-	免除	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	静岡市長	同報無線 戸別受信機 設置
8	建物	事務所建	"	S造			1.62	-	免除	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	静岡市長	防災備蓄品 置場
9	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		277.21	-	免除	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	静岡市長	道路 (歩道)
10	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		371.84	-	免除	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	静岡市長	道路利用
11	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		20.00	-	免除	R5. 4. 1 ～ R8. 3. 31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会長	団体職員 駐車場
12	建物	事務所建	"	SRC 5階建			3.30	-	免除	R5. 4. 1 ～ R8. 3. 31	(一社)静岡県立静岡城北高等学校後援会長	団体職員 執務場所
13	建物	事務所建	"	R C 4階建			20.50	-	免除	R6. 4. 1 ～ R9. 3. 31	静岡城北高等学校PTA会長	パン販売場 所
14	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		40.00	-	免除	R5. 4. 1 ～ R8. 3. 31	静岡城北高等学校PTA会長	団体職員 駐車場
15	建物	事務所建	"	R C 4階建			6.60	-	免除	R5. 4. 1 ～ R8. 3. 31	静岡城北高等学校PTA会長	団体職員 執務場所
16	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地		0.81	-	使用承認	R7. 4. 1 ～ R10. 3. 31	静岡中央警察署長	交通信号機2本 交通標識1本
17	建物	事務所建	"	SRC 5階建			2.00	-	660,110	R6. 4. 1 ～ R9. 3. 31	中央静岡ヤクルト販売株式会社	自動販売機 1台
18	建物	事務所建	"	R C 4階建			3.00	-	円 33,000	R6. 4. 1 ～ R9. 3. 31	中央静岡ヤクルト販売株式会社	自動販売機 2台

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量 又 面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使 用許可を 受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単	価年額			
19	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 8.260	-	免除	R6. 10.4 ～ R6. 11.15	静岡市葵区選挙管理 委員会委員長	衆議院小選 挙区選挙ポ スター、最 高裁判官 国民審査氏 名等掲示場
20			〃			m ²	-	免除	R6. 10.26 ～ R6. 10.27	静岡市葵区選挙管理 委員会委員長	衆議院議員 総選挙投票 所
20の内訳	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 122.5					
20の内訳	建物	事務所建	〃	SRC 5階建		m ² 282.15					
21	建物	事務所建	〃	SRC 5階建		m ² 176.40	-	4,870	R7. 2.15 ～ R7. 2.16	静岡県体操協会	静岡県体操 協会審判講 習会会場
22	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 20.400	-	免除	R7. 2.17 ～ R7. 4.11	静岡市葵区選挙管理 委員会委員長	静岡市議会 議員葵区選 挙区選挙ポ スター掲示 場
23			〃			m ²	-	免除	R7. 3.22 ～ R7. 3.23	静岡市葵区選挙管理 委員会委員長	静岡市議会 議員選挙投 票所
23の内訳	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 122.5					
23の内訳	建物	事務所建	〃	SRC 5階建		m ² 282.15					
24	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 7.440	-	免除	R7. 6.2 ～ R7. 8.10	静岡市葵区選挙管理 委員会委員長	衆議院静岡 県選出議員 選挙ポス ター掲示場
合 計						17本 m ² 1790.0900			円		
									723,480		

□□□□□

主 要 備 品 調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	2-1	パーソナルコン ピュータ(1式)	パーソナルコンピュータ(1式)	毎日 授業で使用	H28. 3	円 5,076,000
2	2-1	パーソナルコン ピュータ周辺機器	パーソナルコンピュータ周辺機器 (静岡城北高等学校)	毎日 授業で使用	R01. 9	4,518,860
3	2-1	電算組織用媒体	ソフトウェア CD-ROM	年 1週間 授業等で使用	H12. 3	4,410,000
4	10-12	体操用器具	新体操用マット セノーAH0603	毎日 授業 部活動等で使用	H14. 1	4,263,000
5	10-12	体操用器具	体操マット セノーAH0602	毎日 授業 部活動等で使用	H12. 3	2,835,000
6	2-2	その他の情報伝 達機器	メインコンソール CP-2000	毎日 授業で使用	H03. 1	1,310,160
7	10-8	その他の芸術用 器具	電気陶芸釜 日本電産シンポ	月1日 授業 部活動等で使用	H12. 3	1,134,000
8	10-12	トレーニング用器 具	スーパーインショルダー&バックプ レスマシン セノー	毎日 部活動等で使 用	H02. 3	1,104,000
9	10-12	トレーニング用器 具	レッグカール BA2113 セノー	毎日 部活動等で使 用	H01.12	1,091,800
10	10-7	鍵盤楽器	ピアノ ヤマハ C-7B	毎日 授業 部活動等で使用	S54. 2	980,000
11	10-12	トレーニング用器 具	レッグプレス BA2013 セノー	毎日 部活動等で使 用	H01.12	952,750
12	10-12	トレーニング用器 具	バタフライ&ローイングマシン BA2413	毎日 部活動等で使 用	H01.12	942,450
13	1-3	回転椅子	回転椅子 NECP-MA46	毎日 授業で使用	H12. 3	924,000
14	10-12	トレーニング用器 具	ラットマシン BA2613 セノー	毎日 部活動等で使 用	H02. 3	896,000
15	1-2	台	実験台(教師用) 3600×900×1050	毎日 授業で使用	H02.11	885,800
16	1-2	台	実験台(教師用) 3000×900×1050	毎日 授業で使用	H02.11	875,500
17	10-7	鍵盤楽器	エレクトーン ヤマハ EL-87	毎日 授業で使用	H11. 1	840,000
18	1-99	その他の庁用器 具	発熱来訪者スクリーニングシステム (サーマルカメラ、管理端末、ソフトウェア)	感染症流行時に体 温管理で使用	R02.10	759,000
19	2-2	その他の情報処 理機器	レクチャーテーブル	毎日 授業で使用 視聴覚活動で使用	H03. 1	636,540
20	1-4	移動書庫	移動書庫 前3 後4	毎日 事務書類の 整理保管で使用	H03. 2	607,700

□□□□□

職 員 調

(本務職員)

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	渡辺 賢一		□□□□□	□年 □月	□□□□□
2	副校長	塚本 裕之		□□□□□	□ □	□□□□□
3	教頭	山田 光俊	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
4	事務長	大坪 淳子	事務総括	□□□□□	□ □	□□□□□
5	教諭	森 聡	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
6	教諭	金指 勝彦	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
7	教諭	渡部 健一	理 科	□□□□□	□ □	□□□□□
8	教諭	荒木 芳則	保健体育	□□□□□	□ □	□□□□□
9	教諭	深澤 美果	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
10	教諭	實石 克巳	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
11	教諭	吉川 契子	理 科	□□□□□	□ □	□□□□□
12	教諭	野村 卓弘	保健体育	□□□□□	□ □	□□□□□
13	教諭	中村 恵	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
14	教諭	梅田 和男	保健体育	□□□□□	□ □	□□□□□
15	教諭	後藤 由美	地歴公民	□□□□□	□ □	□□□□□
16	教諭	和田 里衣子	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
17	教諭	深澤 邦洋	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
18	教諭	田中 純也	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
19	教諭	櫻井 秀夫	地歴公民	□□□□□	□ □	□□□□□
20	教諭	石割 努	地歴公民	□□□□□	□ □	□□□□□
21	教諭	箱崎 俊彦	地歴公民	□□□□□	□ □	□□□□□
22	教諭	置塩 順子	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
23	教諭	増井 輝利子	理 科	□□□□□	□ □	□□□□□
24	教諭	青柳 敦子	保健体育	□□□□□	□ □	□□□□□
25	教諭	金原 真弓	理 科	□□□□□	□ □	□□□□□
26	教諭	サーベドラ 麻衣	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
27	教諭	八木 高廣	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
28	教諭	関 裕子	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
29	教諭	大島 淳	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
30	教諭	鈴木 智久	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
31	教諭	鈴木 洋平	保健体育	□□□□□	□ □	□□□□□
32	教諭	野間 俊夫	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
33	教諭	石川 真由美	外国語	□□□□□	□ □	□□□□□
34	教諭	小杉 敦士	地歴公民	□□□□□	□ □	□□□□□
35	教諭	小沢 祐貴子	保健体育	□□□□□	□ □	□□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
36	教諭	小泉 和也	家 庭 科	□□□□□	□ □	□□□□□
37	教諭	細田 健太郎	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
38	教諭	井出 愛美	音 楽	□□□□□	□ □	□□□□□
39	教諭	高橋 秀平	理 科	□□□□□	□ □	□□□□□
40	教諭	高橋 岳	地歴公民	□□□□□	□ □	□□□□□
41	教諭	望月 孝太	外 国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
42	教諭	袴田 晃弘	保 健 体 育	□□□□□	□ □	□□□□□
43	教諭	山田 将寛	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
44	教諭	松野 宏昭	情 報	□□□□□	□ □	□□□□□
45	教諭	宮原 郁弥	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
46	教諭	大城 アルパロ順	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
47	教諭	船本 陽奈	理 科	□□□□□	□ □	□□□□□
48	教諭	河野 了信	数 学	□□□□□	□ □	□□□□□
49	教諭	鹿島 群太	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
50	講師	GOH CHAY HIAN	外 国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
51	養護教諭	杉本 絵美子	養 護	□□□□□	□ □	□□□□□
52	主任実習助手	今津 郁雄	理 科	□□□□□	□ □	
53	主幹	原 夏織	庶務・管財	□□□□□	□ □	□□□□□
54	主査	堀 文子	会 計	□□□□□	□ □	□□□□□
55	主査	河合 文	庶務・会計	□□□□□	□ □	□□□□□
56	主任	原 美佑	庶 務	□□□□□	□ □	□□□□□
平均年数					□ 年 □ 月	

臨時・会計年度任用職員等

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭（臨）	森川 春香	音 楽	□□□□□	□ □	□□□□□
2	主事（臨）	米山 祐美	庶務・会計	□□□□□	□ □	□□□□□
3	会計年度任用職員	ヘレン ターリー	外 国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
4	会計年度任用職員	山本 晴康	美 術	□□□□□	□ □	□□□□□
5	会計年度任用職員	鈴木 尚子	書 道	□□□□□	□ □	□□□□□
6	会計年度任用職員	西田 博子	外国語（仏）	□□□□□	□ □	□□□□□
7	会計年度任用職員	油井 妃奈子	外国語（中）	□□□□□	□ □	□□□□□
8	会計年度任用職員	中山 正弘	地 歴 公 民	□□□□□	□ □	□□□□□
9	会計年度任用職員	齋藤 重子	国 語	□□□□□	□ □	□□□□□
10	会計年度任用職員	田形 一雄	通 級 指 導	□□□□□	□ □	□□□□□
11	会計年度任用職員	吉川 紳	陸 上	□□□□□	□ □	□□□□□
12	会計年度任用職員	大石 将夫	女子ハンド ボール	□□□□□	□ □	□□□□□
13	会計年度任用職員	荒木 芳則	女子バレー ボール	□□□□□	□ □	□□□□□
14	会計年度任用職員	小林 信義	用 務	□□□□□	□ □	□□□□□
15	会計年度任用職員	小長井 謙二	用 務	□□□□□	□ □	□□□□□
16	会計年度任用職員	柴 沙英	用 務	□□□□□	□ □	□□□□□
17	学校医	川野辺 重之	内 科	□□□□□	□ □	□□□□□
18	学校医	加藤 高志	耳 鼻 科	□□□□□	□ □	□□□□□
19	学校医	高橋 邦昌	眼 科	□□□□□	□ □	□□□□□
20	学校歯科医	河村 忠彦	歯 科	□□□□□	□ □	□□□□□
21	学校薬剤師	重田 和史	薬 剤 師	□□□□□	□ □	□□□□□

□□□□□

職員の年齢調

(令和7年6月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	4	
30歳以上40歳未満	12	
40歳以上50歳未満	14	
50歳以上56歳未満	8	
56歳以上61歳未満	10	
61歳以上	8	暫定再任用職員
計	56	平均年齢 47.8歳

□□□□□

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 54人
	職員数 55人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

□□□□□ 1名

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分		人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。	0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は、遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療 0人
B 2		要経過観察 0人
C 1	勤務をほぼ正常に行ってよいが、症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期、又は、遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療 0人
C 2		要経過観察 0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療 4人 (4人)
D 2		要経過観察 43人 (43人)
D 3		医 療 不 要 7人 (7人)
区 分 者 計		54人 (54人)
未区分者数		2人
合 計		56人

(1) 管理区分A～C2該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア □□□□□ 1人
 イ □□□□□ 1人
 ウ □□□□□ 0人
 エ □□□□□ 0人